

**JAPAN**  
Official Development Assistance

**JICA**  
独立行政法人  
国際協力機構

**バンコクODAプロジェクトマップ**  
Bangkok ODA Project Map

2011年3月作成

**ODAとJICA**

日本は1954年米、政府開発援助 (ODA・Official Development Assistance) として、開発途上国に資金・技術的協力を実施してきました。国際協力機構 (JICA) はODAのうち、国際協力の資金の拠出を除く、二国間援助を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約100ヶ所にのぼる海外拠点を設けて、世界150以上の国と地域で事業を展開しています。

**ビジョンとミッション**

- グローバル化に伴う課題への対応
- 公正な成長と貧困削減
- ガバナンスの改善
- 人間の安全保障の実現

**協力の形態**

JICAは、途上国の開発を支援するための3つの手法、技術協力、有償資金協力、無償資金協力を、使い分け、広く地域に立ち、効果的、効率的な支援を実施しています。

**技術協力**

- 無償資金協力 (JICA)
- 有償資金協力 (円借款)

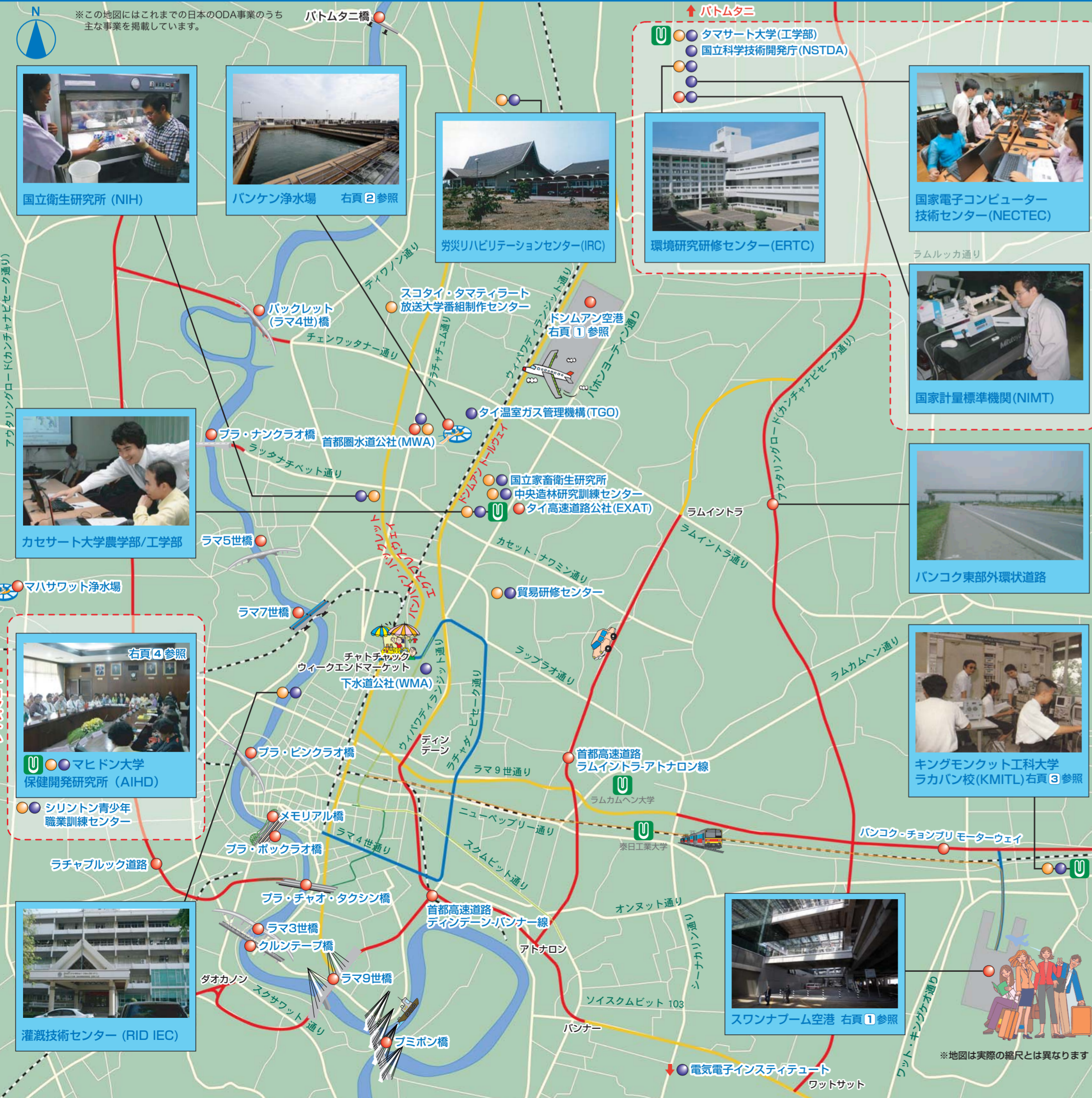
無償資金協力は、途上国の開発に資するもの、学術、研究、研修、調査などの協力の形態で実施され、無償資金協力の形態で実施される。

有償資金協力は、途上国の開発に資するもの、学術、研究、研修、調査などの協力の形態で実施され、有償資金協力の形態で実施される。

無償資金協力は、途上国の開発に資するもの、学術、研究、研修、調査などの協力の形態で実施され、無償資金協力の形態で実施される。

有償資金協力は、途上国の開発に資するもの、学術、研究、研修、調査などの協力の形態で実施され、有償資金協力の形態で実施される。

**ODAマップ (バンコク首都圏)**



**バンコクODA主要プロジェクト**

**1 ●●● バンコクの空港 (スワンナブーム空港 / ドムアン空港)**

2006年9月28日、バンコクの東方約30kmのサムットプラカーン県ノングハオにてスワンナブーム新バンコク国際空港が開港しました。1996年から2004年にかけて締結された円借款は累計約1640億円、滑走路2本 (東側長さ4000m、幅60m、西側長さ3700m、幅60m)、旅客ターミナルビル (年間旅客収容能力約4500万人) 等の建設が行われました。新空港の開港に先立ち、2004年からは、技術協力プロジェクト「スワンナブーム空港環境管理・施設維持能力向上プロジェクト」を行い、日本から長期専門家1名、短期専門家34名 (環境管理 (航空機騒音、排気ガス、空港廃水等)18名、施設維持管理16名) 専門家を派遣し、空港建設事業へのアドバイス、空港施設管理へのアドバイス、環境管理、施設維持能力向上のための協力を行いました。現在では、東南アジア地域のハブ空港のひとつとして、年間4270万人 (2010年度実績) の利用者を持つ、重要な空港となっています。

また、スワンナブーム空港開港までバンコクの空の玄関口であったドムアン空港の建設に対しても、総額355億円の円借款が供与されています。具体的には、1979年から1982年にかけて、滑走路1本、誘導路9本、駐機場拡張 (23から47パーセ)、国際線ターミナル新設・拡張、貨物ターミナル2新設、関連施設やシステムの整備等、さまざまな空港施設への資金協力が行われました。

**2 ●●● 上水道整備 (首都圏水道公社 : MWA)**

バンコク首都圏の上水道整備のために、1979年から2000年にかけて締結された円借款は累計1000億円です。具体的には、バンケン浄水場の設備増強、マハサット浄水場の設備増強、配水管網の整備などがあり、バンケン浄水場はタイ最大の浄水場として、1日約360万m<sup>3</sup> (東京都の浄水場1箇所で1日約150万m<sup>3</sup>) の水を供給しており、東南アジア最大の浄水場となっています。

また、1985年に無償資金協力で「水道技術訓練センター」 (NWTT) を建設、1985年から5年間水道技術者の育成を図るために、技術協力プロジェクトを実施し、「水道計画」「水道経営」「浄水及び水質管理」「配水管の維持管理」「電気・機械設備」といった分野での技術移転を行いました。また、1994年からの5年間の技術協力プロジェクトでは、より高度な技術の移転を目的としたNWTTの教育訓練、研究開発、情報交換機能の強化を実施しました。さらに、NWTTは、JICAの支援も受け、周辺国を対象に研修事業が実施されている等、周辺国に対する広域的な協力にも役立っています。

**3 ●●● キングモンクット工科大学ラカパン校 (KMITL)**

KMITLに対するJICAの協力の歴史は、1960年の「ランタブリ電気通信訓練センター」の設立に遡ります。その後、約50年以上に亘り、2回の無償資金協力、4回の技術協力プロジェクト等のさまざまな協力が推進され、KMITLの発展を支えてきました。

これらの協力の結果、当初23名の受講生から始まったKMITLは、現在、工系7学部の他に大学院等を有し、学生数約2万3,000人、教員数約2,200人を擁するタイを代表する工学系総合大学の一つにまで成長し、日タイの技術協力のシンボルとされています。さらに、現在は、JICAがアセアン10カ国を対象に実施するアセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN / SEED-Net) プロジェクトにおいて、情報通信分野におけるアセアン各国の人材育成の中核大学の1つとなっています。実証・実習を重視した教育・研究方式の導入やタイにおける最初の工学系博士課程の設置など、タイの工学系教育をリードするとともに、タイの経済界や日系企業に対し優秀な人材を輩出するなど、学術的・経済的にも大きな影響を与えています。

**4 ●●● マヒドン大学保健開発研究所 (AIHD)**

マヒドン大学のアセアン保健開発研究所 (AIHD) は、1982年に日本の無償資金協力により「アセアンプライマリ・ヘルスケア訓練センター」として建設され、プライマリ・ヘルスケアの人造りセンターとして設立されたものです。1986年から2007年にはJICAの技術協力によりプライマリ・ヘルスケアの修士課程が1年間の国際コースとして実施されました。このコースはプライマリ・ヘルスケアに携わる医療職の指導力や管理能力の向上に重点を置いており、世界各国からこれまでに参加した500名以上にのぼる卒業生が、プライマリ・ヘルスケアの発展のために働き、活躍しています。JICAによる支援が2007年に終了して以降も、AIHDは引き続き独自にこのコースを運営しており、日本からの留学生も、公衆衛生分野の修士号を取得するための勉学に勤めています。

JICAのタイに対する支援はその発展に伴い徐々に減少してきていますが、これまでに協力によりタイにもたらされた「成果」が、このように両国の財産 (アセット) として根付き、タイや日本も含め他の国々に対して恩恵をもたらし続けています。



**東部臨海開発プロジェクト**

チャチェンサオ、チョンブリ、ラヨンの3つの県にまたがる「東部臨海地域」は、産業基盤の整備を目的として、タイ政府により、1980~1990年代にかけて開発が進められてきました。その中で、日本は、開発調査や円借款の供与により各種インフラストラクチャー整備を支援してきました。この結果、東部臨海地域はバンコクに次ぐタイの第二の工業地帯となり、東部臨海地域3県の一人当たりのGNPは1981年の約27,000バーツから、2009年の528,000バーツへと飛躍的に増加しました。

この中でも、マブタブット地区とレムチャパン地区の発展は目覚しく、マブタブット地区は天然ガスを利用したタイ随一の重化学産業基盤として発展し、レムチャパン地区は自動車・電気機械工業が集まり東部地域の一大工業拠点として成長を遂げています。また、この地域では2005年までに56万4千人の雇用が創出されています。

**タイランド**

**バンコク**

**クロン19~ケンコイ鉄道建設事業**

**バンコク東部外環状道路建設事業**

**バンコク~チョンブリ道路建設事業**

**チョンブリ~バタヤ道路建設事業**

**シラチャ~レムチャパン鉄道建設事業**

**レムチャパン工業団地建設事業**

**レムチャパン商業港建設事業**

**マブタブット~サタヒップ送水管建設事業**

**サタヒップ~マブタブット鉄道建設事業**

**天然ガスパイプライン**

**ケンコイ**

**クロン19**

**チャチェンサオ**

**バンコク**

**チョンブリ**

**シラチャ**

**レムチャパン**

**バタヤ**

**サタヒップ**

**ラヨーン**

**マブタブット**

**シャム湾**

**ノンコレムチャパン送水管建設事業本体**

**ノンブラライ~ノンコ送水管建設事業**

**東部臨海地域送水管建設事業**

**ノンブラライダム建設事業**

**天然ガス分離プラント建設事業**

**マブタブット工業港建設事業**

**マブタブット工業団地建設事業**

**肥料工場建設事業**





# ODAマップ (バンコク市内)



### 社会開発・人間安全保障省 社会福祉局

- 人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト (2009)

### 内務省 防災軽減局 (DDPM)

- 防災能力向上プロジェクト (2006)
- 同フェーズII (2010)

### 内務省 自治体振興局 (DLA)

- 自治体間協力及び自治体行政サービス基準向上プロジェクト (2005)
- 県自治体支援による自治体間協力を通じた公共サービス提供能力向上(2010)

### アジア太平洋障害者センター (APCD)

- アジア太平洋障害者センター建設計画 (2003/2004)
- アジア太平洋障害者センタープロジェクト (2002)
- 同フェーズII (2007)

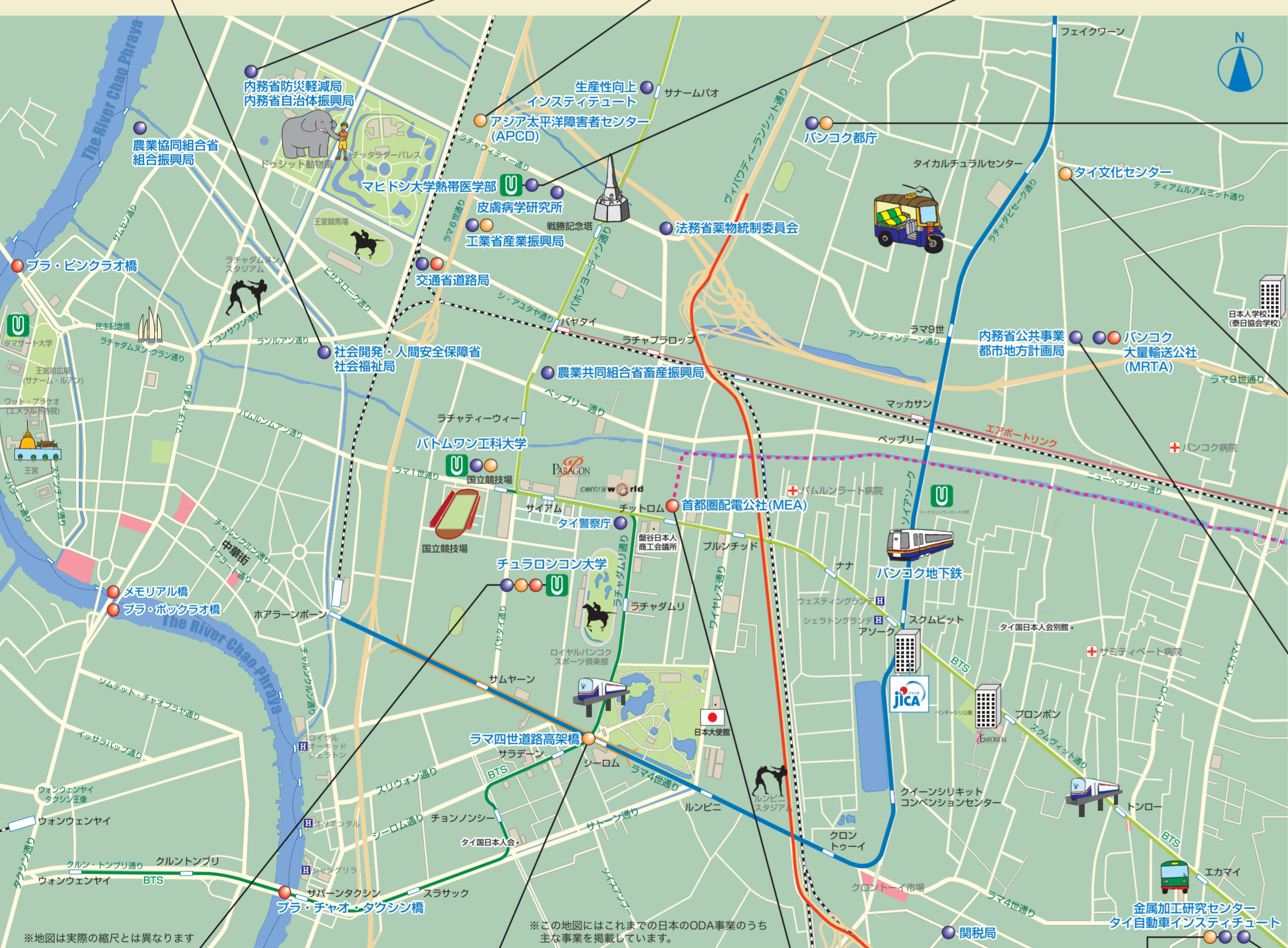
### マヒドン大学熱帯医学部

- マヒドン大学熱帯医学部プロジェクト (1966)
- 国際寄生虫対策アジアセンタープロジェクト (2000)
- デング熱感染症等治療製剤研究開発プロジェクト (2009)

### バンコクODAマップ 地図記号一覧表

- 技術協力案件
- 有償資金協力(円借款)案件
- 無償資金協力案件
- 有償資金協力(円借款)高速道路
- 有償資金協力(円借款)鉄道
- 有償資金協力(円借款)地中送電線
- 無償協力道路高架橋
- 高速道路
- 一般道
- BTS
- 国鉄線

技術協力は案件開始年、無償資金協力はE/N締結年、円借款はL/A調印年を「」で区切って表示。



### チュラロンコン大学工学部

- 工学部視察機材/研究用機材の供与(1987/1990)
- 日・タイ技術移転 第20次円借款(1995年 約79億円)
- タイの科学技術教育と研究開発活動の向上のため、日本の大学・研究機関への研究生派遣、日本の研究者招聘、研究材料調達等を実施。
- 熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発プロジェクト(2009)
- アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト(2003)、同フェーズII(2008)

### ラマ四世道路高架橋

- ラマ四世道路高架橋建設計画 (1990/1991)

### 首都圏配電公社(MEA)

- バンコク地中送電線 第27次円借款 (2002 / 約103億円)
- バンコク東部、バンカビ変電所〜ネットロム変電所の間、センター運河の下において地中送電線トンネル(約7km、230kV・2回線)が建設されました。

### 金属加工研究センター

- 金属加工・機械工業開発研究所建設計画 (1985)
- 金属加工・機械工業開発プロジェクト (1986)
- 金型技術向上事業プロジェクト (1999)

### タイ自動車インスティテュート

- 自動車インスティテュート支援プロジェクト (1999)
- 自動車裾野産業人材育成プロジェクト (2006)
- 豊谷日本人工会議所(JCC)、現地日系自動車メーカー(トヨタ、デンソー、ホンダ、日産)、JETRO/バンコク等と協同で実施した官民連携案件です。

## バンコク地下鉄・都市鉄道

### 地下鉄ブルーライン線 (チャラムラチャモン線)

バンコクの最初の地下鉄は、1996年から2004年にかけて、全18駅、20kmの区間(右の地図では青実線で示されている路線)の建設が行われ、「チャラムラチャモン線」として、2004年7月に開通しました。この地下鉄には、1996年から累計で約2200億円が融資され、トンネル建設、車両基地、レール軌道、駅構内のエレベーターやエスカレーターを含む大部分の土木工事を円借款によって行いました。また、併せて、技術協力により、日本から、営団地下鉄(現:東京メトロ)等から専門家が派遣され、運行スケジュール管理等の技術移転も行われました。ブルーラインでは、エレベーターやエスカレーター、スロープの設置に加え、ユニバーサルデザインの観点から障害者や高齢者へ配慮し、安全性の向上や省エネを目的としてプラットフォームにドアシールドを設置しています。

### 都市鉄道パープルライン線

バンコクの地下鉄完成後、2008年3月、及び2010年9月には、都市鉄道パープルライン線を対象として、それぞれ624億4,200万円、166億3,900万円を限度とする円借款貸付契約が締結されました。現在、バンコク都内のパンスーと北西部パンヤイ地区で、全16駅、23kmの区間(右の地図では紫実線で示されている路線)の建設が行われており、2015年2月に開通予定です(2011年3月時点)。この都市鉄道には、高架、駅舎、車両基地、軌道等に係る土木工事及びコンサルティングサービス(施工監理、環境管理計画策定等)費用等が、円借款によって行われています。

### 都市鉄道レッドライン線

また2009年には、都市鉄道レッドライン線を対象とした630億1,800万円を限度とする円借款貸付契約が締結されました。バンコク都内のパンスーと北部ランジット地区を結び、全8駅、26.4kmの区間(右の地図では赤実線で示されている路線)の建設が予定されており、2015年10月に開通予定です(2011年3月時点)。この都市鉄道では、高架、駅舎、車両基地、軌道等に係る土木工事及びコンサルティングサービス(施工監理、環境管理計画策定等)費用等の他に、車両購入費等が、円借款によって行われています。

これら、バンコク都市鉄道網の整備を支援するため、JICAは2005年から2008年にかけて、運輸省交通計画・政策局(OTP)へ鉄道専門家を派遣し、本事業の計画策定を含め、バンコクの交通セクターに係る提言も行ってきています。

### バンコク都庁

- バンコク市洪水管理センター機材整備計画 (1988)
- バンコク都気候変動削減適応策実施能力向上プロジェクト (2009)

### タイ文化センター

- 社会教育文化センター建設 (1984/1985/1986)

### 内務省公共事業都市地方計画局

- 都市開発技術向上計画プロジェクト(1999)
- 土地区画整理促進プロジェクト(2005)
- 土地区画整理システム自立的発展普及プロジェクト(2010)

## チャオプラヤ川の橋梁群

ODA関連の橋梁 (14橋)  
その他の橋梁 (6橋)

- バトムタニ橋**  
第8次円借款 (1981年 約58億円)  
橋の長さ: 239m  
着工: 1983年2月  
開通: 1984年9月  
施工: 住友建設
- ブラ・ナンクラオ橋**  
第8次円借款 (1981年 約58億円)  
橋の長さ: 329m  
着工: 1983年2月  
開通: 1985年7月  
施工: 住友建設
- ラマ4世橋 (バックレット橋)**  
第22次円借款 (1997年 約68億円)  
橋の長さ: 416m  
着工: 2003年12月  
開通: 2006年12月  
施工: (第1工区: 橋梁・東西道路約7.7km)大成建設、Sino-Thai Engineering and Construction Public Co., Ltd. 合併、(第2工区: ラチャブルック道路約6.1km)三井住友建設
- ラマ5世橋**  
第20次円借款 (1995年 約72億円)  
橋の長さ: 320m  
着工: 1999年11月  
開通: 2002年6月  
施工: 三井住友建設、イタリアンタイ合併  
ナコン・イン道路: ティワノン街道~首都外環状道路区間(約12km) 着工: 2001年4月  
開通: 2004年4月  
施工: 三井住友建設、イタリアンタイ合併
- ラマ7世橋**  
第13次円借款 (1987年 約55億円)  
橋の長さ: 290m  
着工: 1990年1月  
開通: 1992年9月  
施工: 大林組、住友建設、タイ大林合併
- ブラ・ピンクラオ橋**  
第1次円借款 (1971年 約13億円)  
橋の長さ: 280m  
着工: 1971年8月  
開通: 1973年9月  
施工: 大林組、住友建設
- メモリアル橋**  
補修: 第7次円借款 (1980年 約42億円)  
補修工事: 1983年11月~1984年12月  
橋の長さ: 234m  
着工: 1929年12月  
開通: 1932年4月  
施工: Dorman Long & Co.Ltd. 住友建設
- ラマ3世橋**  
第17次円借款 (1993年 約75億円)  
橋の長さ: 476m  
着工: 1996年8月  
開通: 2000年3月  
施工: ED.Zublin AG、Wayss Freytag、Stecon 合併
- ラマ9世橋**  
第9次円借款 (1982年 約259億円)  
橋の長さ: 781m  
着工: 1984年10月  
開通: 1987年12月  
施工: 日立造船、東急建設  
チョーカンチャン、神戸製鋼、日商岩井
- クラムテブ橋**  
建設: 戦後賠償金  
補修: 第17次円借款 (1993年 約75億円)  
橋の長さ: 350m  
着工: 1954年8月  
開通: 1959年6月  
施工: 富士自動車工業 補修工事: 2000年3月~2002年2月  
補修内容: 全橋塗装、電気開閉システム設置、開閉接続部交換など 施工: ED.Zublin AG、Wayss Freytag、and Stecon 合併
- プミポン橋**  
第22次円借款 (1997年 約148億円)  
北橋・橋の長さ: 582m  
着工: 2001年10月  
開通: 2006年9月  
南橋・橋の長さ: 702m  
着工: 2001年10月  
開通: 2006年9月  
施工: 2001年10月  
開通: 2006年9月  
施工: 北橋・南橋共に大成建設、西松建設、NKK、Sino-Thai Engineering and Construction 合併
- 東西高架接続道路**  
長さ: 約2,200m  
着工: 2001年11月  
開通: 2006年9月  
施工: 鹿島建設、東急建設、Unique Engineering & Construction 合併